

1 調査名称：帯広圏総合都市交通体系調査（都市交通マスタープラン策定調査）

2 調査主体：北海道

3 調査圏域：帯広圏（帯広市、音更町、芽室町、幕別町（虫類地区除く））

4 調査期間：令和4年～令和6年

5 調査概要：

帯広圏においては、平成17年度に行われた帯広圏総合都市交通体系調査から、すでに15年以上が経過しており、近年においては人口減少や少子高齢化の進行、高速道路の開通や都市計画道路の整備といった道路状況の変化など、都市交通を取り巻く地域や経済社会の情勢が大きく変化している状況から、新たな課題や過去の推計との乖離などが懸念されており、現況を踏まえた将来の計画を立案、策定が必要となっている。

このような社会的要請に対し、交通の主要因となる人の動きを把握するパーソントリップ調査を実施し、都市交通需要の動向を勘案し、社会・経済情勢の変化に対応した新たな帯広圏の都市交通マスタープランを策定するものである。

I 調査概要

1 調査名称：帯広圏総合都市交通体系調査

2 報告書目次

第1章 調査の目的と概要

- 1-1 調査の背景と目的
- 1-2 都市交通マスタープランについて
- 1-3 都市交通マスタープラン策定に至るまでの全体構成
- 1-4 調査の組織体制
- 1-5 令和6（2024）年度の審議概要
- 1-6 令和6（2024）年度の調査概要

第2章 帯広圏の地域特性

- 2-1 帯広圏の現況整理
- 2-2 帯広圏のトリップ特性

第3章 将来交通需要予測

- 3-1 将来需要予測の手順
- 3-2 将来交通需要予測モデルの概要
- 3-3 生成交通量予測モデルの作成
- 3-4 発生・集中交通量予測モデルの作成
- 3-5 分布交通量予測モデルの作成
- 3-6 交通手段分担予測モデルの検討
- 3-7 配分交通量予測モデルの作成
- 3-8 将来人口指標の設定
- 3-9 生成交通量の予測
- 3-10 発生集中交通量の予測
- 3-11 分布交通量の予測
- 3-12 分担交通量の予測
- 3-13 配分交通量の予測

第4章 帯広圏の課題

- 4-1 都市全般の課題
- 4-2 道路交通の課題
- 4-3 公共交通の課題
- 4-4 防災の課題
- 4-5 観光の課題

第5章 帯広圏の将来像の設定

- 5-1 上位計画・関連計画から見た帯広圏の将来像
- 5-2 課題の設定
- 5-3 都市交通マスタープランの計画理念と基本方針

第6章 都市交通マスタープラン

- 6-1 都市交通マスタープランの施策
- 6-2 帯広圏の将来計画
- 6-3 将来像

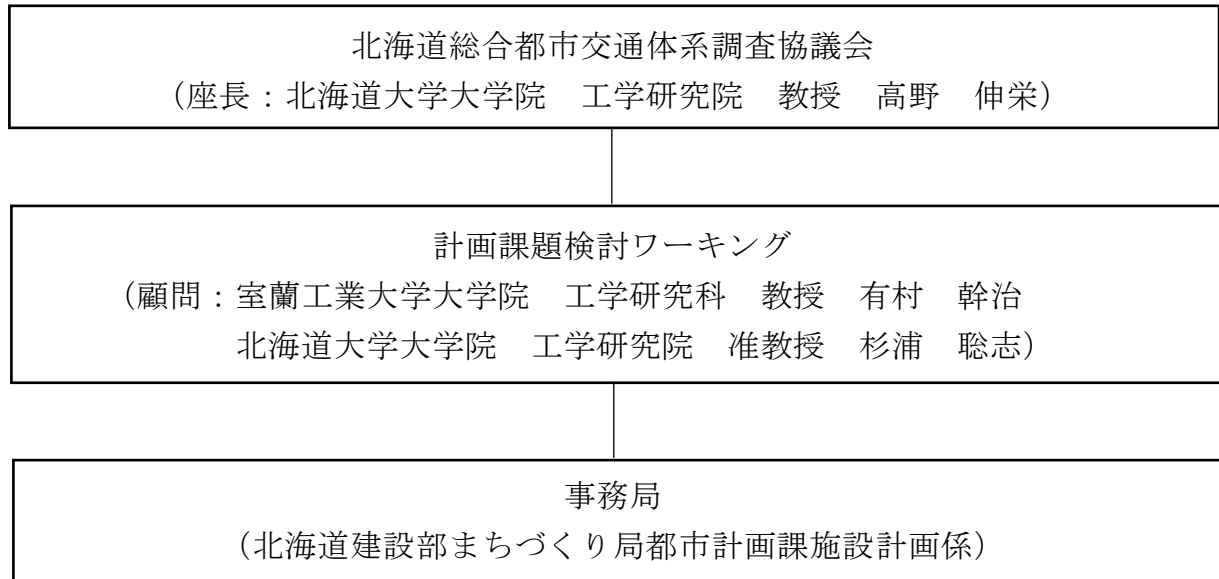
第7章 都市交通マスタープランの実現に向けて

- 7-1 パブリックコメントの実施
- 7-2 今後の取組

資料編

資料1 北海道総合都市交通体系調査協議会開催要領

3 調査体制



4 委員会名簿等：

北海道総合都市交通体系調査協議会 委員名簿

座長	高野 伸栄	北海道大学大学院工学研究院 教授
委員	岸 邦宏	北海道大学大学院工学研究院 教授
	内田 賢悦	北海道大学大学院工学研究院 教授
	赤川 裕志	北海道開発局開発監理部開発調整課 課長
	財津 知亨	北海道開発局事業振興部都市住宅課 課長
	村上 睦	北海道開発局建設部道路計画課 課長
	若杉 貴志	北海道運輸局交通政策部交通企画課 課長
	加賀田 正則	東日本高速道路（株）北海道支社総合企画部 部長
	金山 宜史	北海道旅客鉄道（株）総合企画本部経営企画部 専任部長
	中山 奈央	（一社）北海道バス協会 事務局主幹
	中田 英二	帯広市都市環境部都市建築室都市政策課 課長
	和田 圭太郎	音更町建設部都市計画課 課長
	松井 公博	幕別町建設部都市計画課 課長
	佐藤 季之	芽室町都市経営課 課長

（敬称略）

オブザーバー	北海道警察本部交通部交通規制課長
	北海道総合政策部交通政策局交通企画課地域交通担当課長
	北海道建設部建設政策局建設政策課交通基盤担当課長
	北海道建設部土木局道路課長
	北海道建設部まちづくり局都市環境課長
事務局	北海道建設部まちづくり局都市計画課

北海道総合都市交通体系調査協議会
計画課題検討ワーキング 顧問及び委員名簿

顧問	有村 幹治	室蘭工業大学大学院工学研究科 教授
	杉浦 聡志	北海道大学大学院工学研究院 准教授
委員	水野 亮介	北海道開発局開発監理部開発調整課 専門官
	長谷川 幸一	北海道開発局事業振興部都市住宅課 街路市街地係長
	浦 建一郎	北海道開発局建設部道路計画課 調査第2係長
	高橋 和也	帯広市都市環境部都市建築室都市政策課 交通政策係長
	村尾 優一	音更町建設部都市計画課 都市計画係長
	鳴海 走也	幕別町建設部都市計画課 計画係長
	山田 大樹	芽室町都市経営課都市経営係 主査

(敬称略)

オブザーバー	北海道総合政策部交通政策局交通企画課 主査(地域調整班)
	北海道建設部建設政策局建設政策課 主査(新幹線)
	北海道建設部土木局道路課道路企画係 係長
	北海道建設部まちづくり局都市環境課街路計画係 係長
事務局	北海道建設部まちづくり局都市計画課施設計画係

Ⅱ 調査成果

1 調査目的

帯広圏においては、平成 17 年度に行われた帯広圏総合都市交通体系調査から、すでに 15 年以上が経過しており、近年においては人口減少や少子高齢化の進行、高速道路の開通や都市計画道路の整備といった道路状況の変化など、都市交通を取り巻く地域や経済社会の情勢が大きく変化している状況から、新たな課題や過去の推計との乖離などが懸念されており、現況を踏まえた将来の計画を立案、策定が必要となっている。

このような社会的要請に対し、交通の主要因となる人の動きを把握するパーソントリップ調査を実施し、都市交通需要の動向を勘案し、社会・経済情勢の変化に対応した新たな帯広圏の都市交通マスタープランを策定することを目的とする。

2 調査フロー

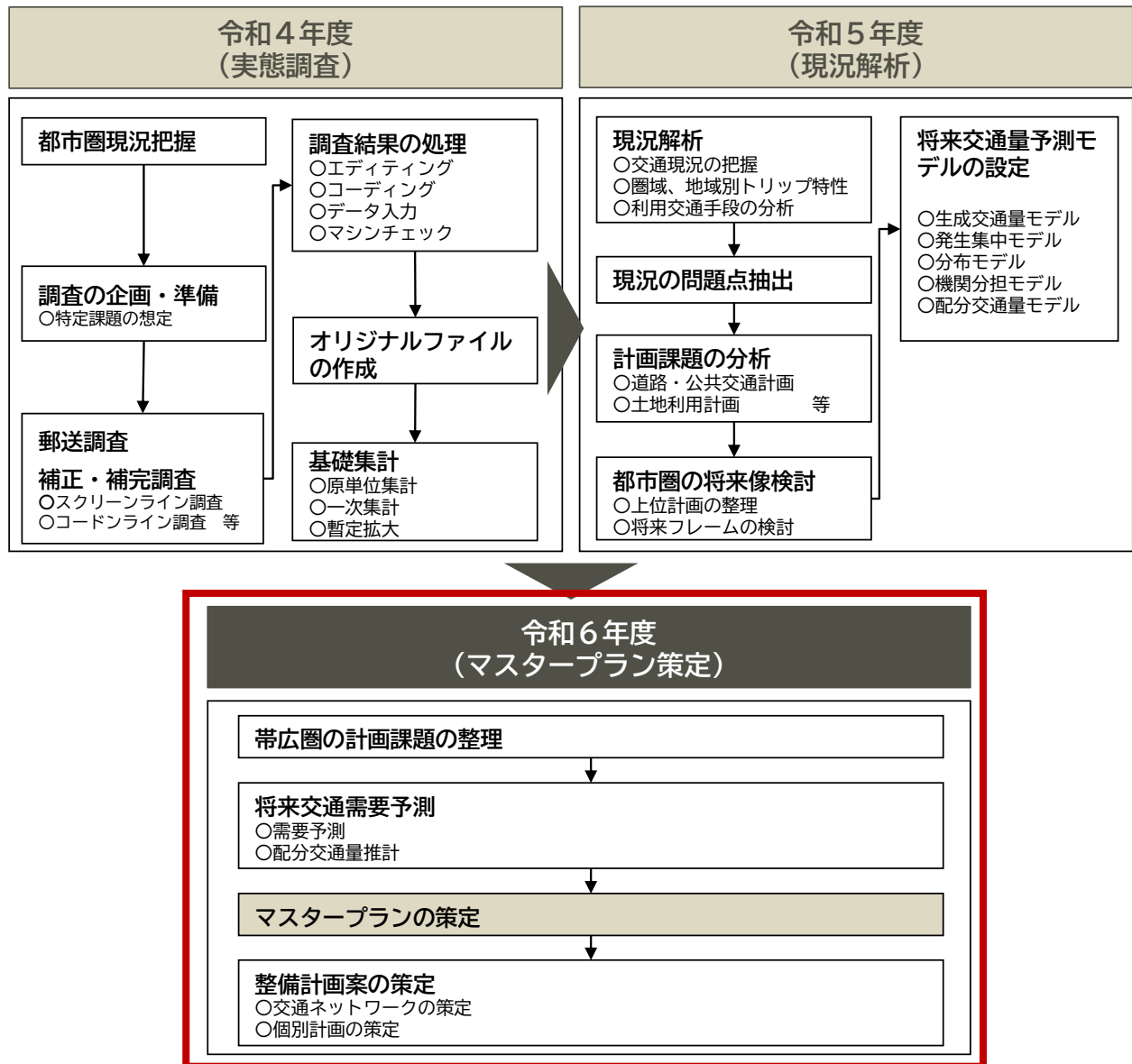


図1 赤囲い：令和6年度の検討フロー

3 調査圏域図

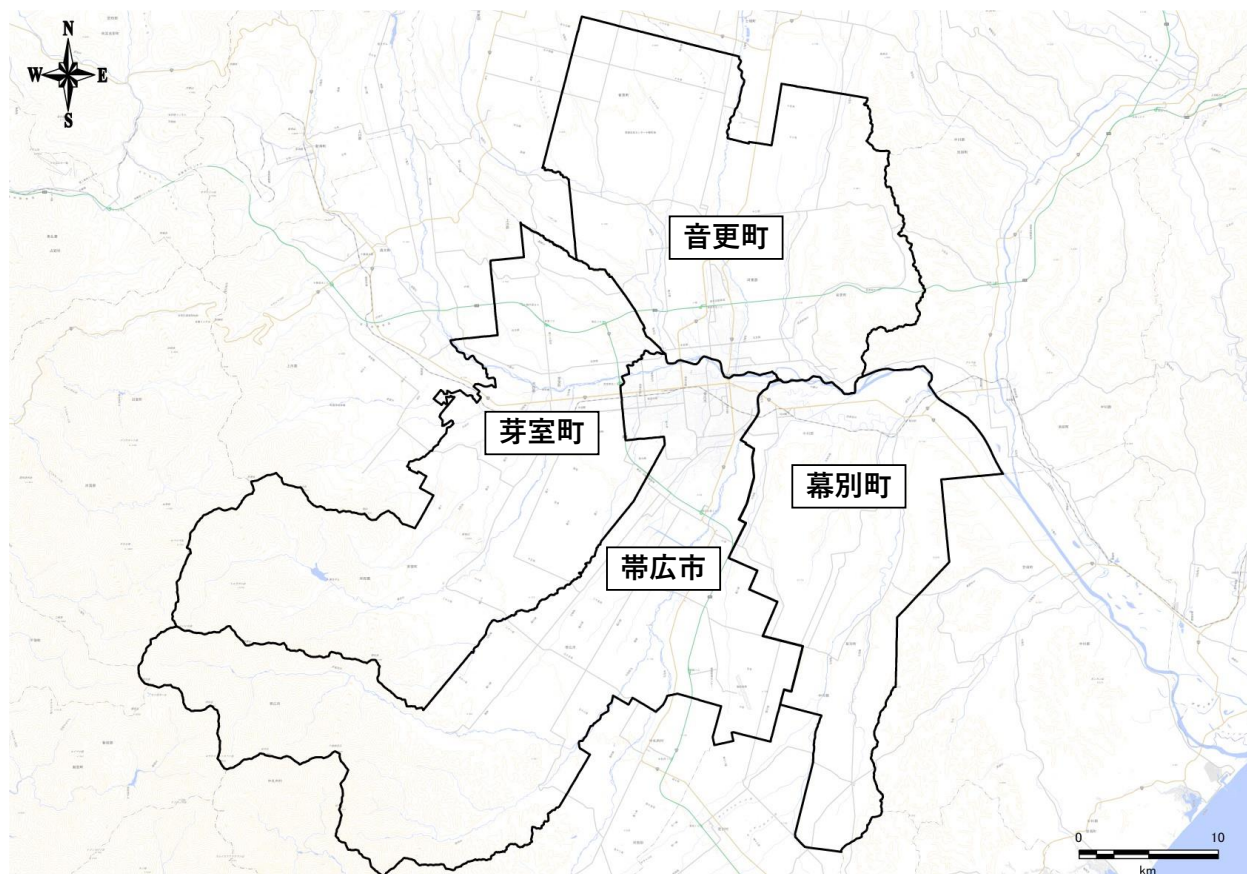


図 2 調査圏域図

４ 調査成果

(１) 都市交通マスタープラン策定の概要

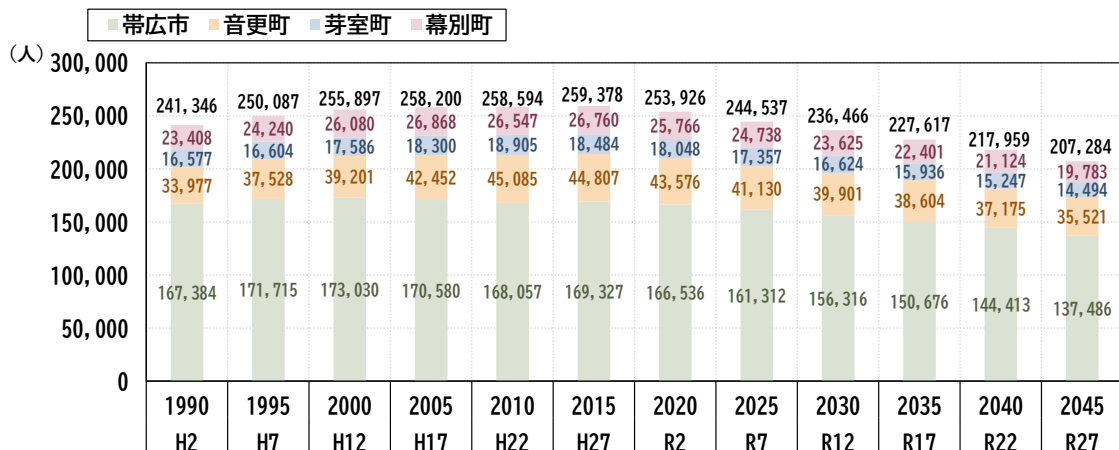
実態調査・現況解析の結果に基づき、帯広圏における交通体系の課題及び将来交通の需要を整理・把握し、目指すべき都市の将来像とその実現のための交通施策の在り方について、令和２２年（２０２４年）を目標年次とした都市交通マスタープランを策定する。

① 帯広圏の都市全般の課題

１) 人口の減少と少子高齢化の加速

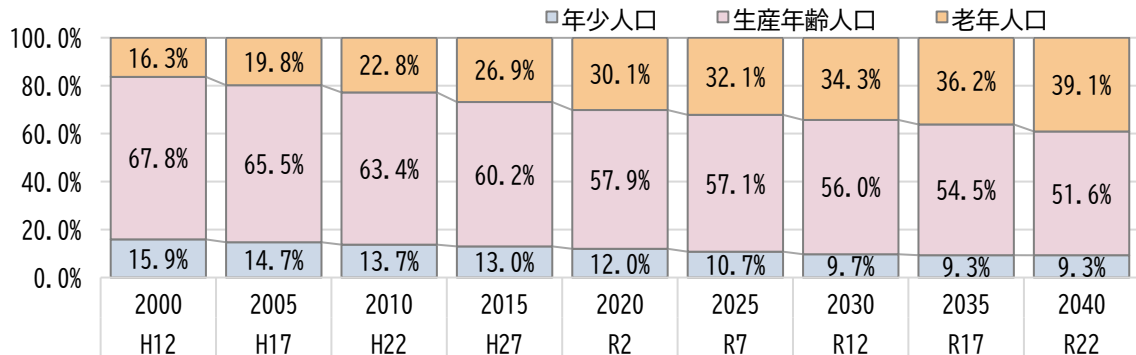
帯広圏の人口は、平成２７年をピークに減少に転じており、今後も人口減少が進行していくと推計されている。

また、帯広圏の老年人口割合は平成２２年には２１％以上となり、超高齢社会に突入し、令和２年には３０％を超え、今後も増加していくと推計されている。



資料：《H2～R2》国勢調査、《推計値》国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」

図３ 人口の推移（帯広圏市町別）



資料：《H2～R2》国勢調査、《推計値》国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」

図４ 人口割合の推移（帯広圏）

2) 高い自動車依存と高齢者の運転意向

帯広圏の自動車の利用割合は、他の都市圏と比較して高い水準となっており、公共交通の割合が最も低い状況となっている。

また、帯広圏の運転意向については、70歳以上まで運転するといった回答が約7割と免許返納の意向は低い状況となっている。

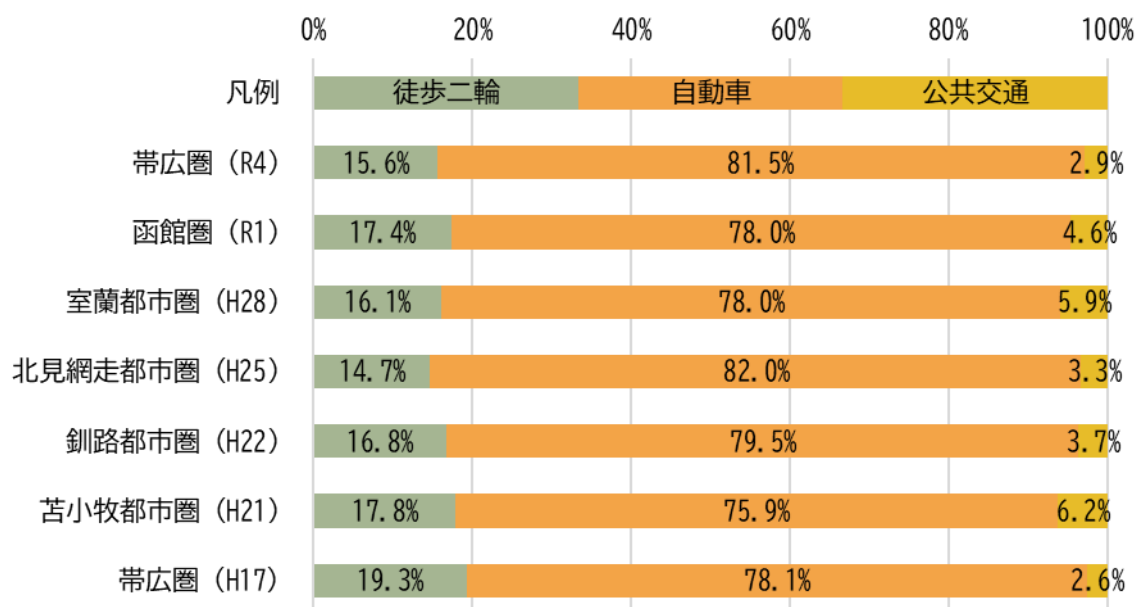


図5 代表交通手段の交通手段分担率（都市圏）

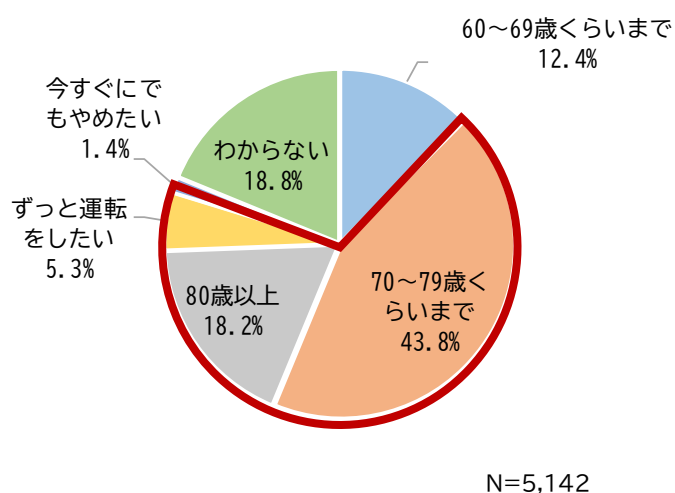
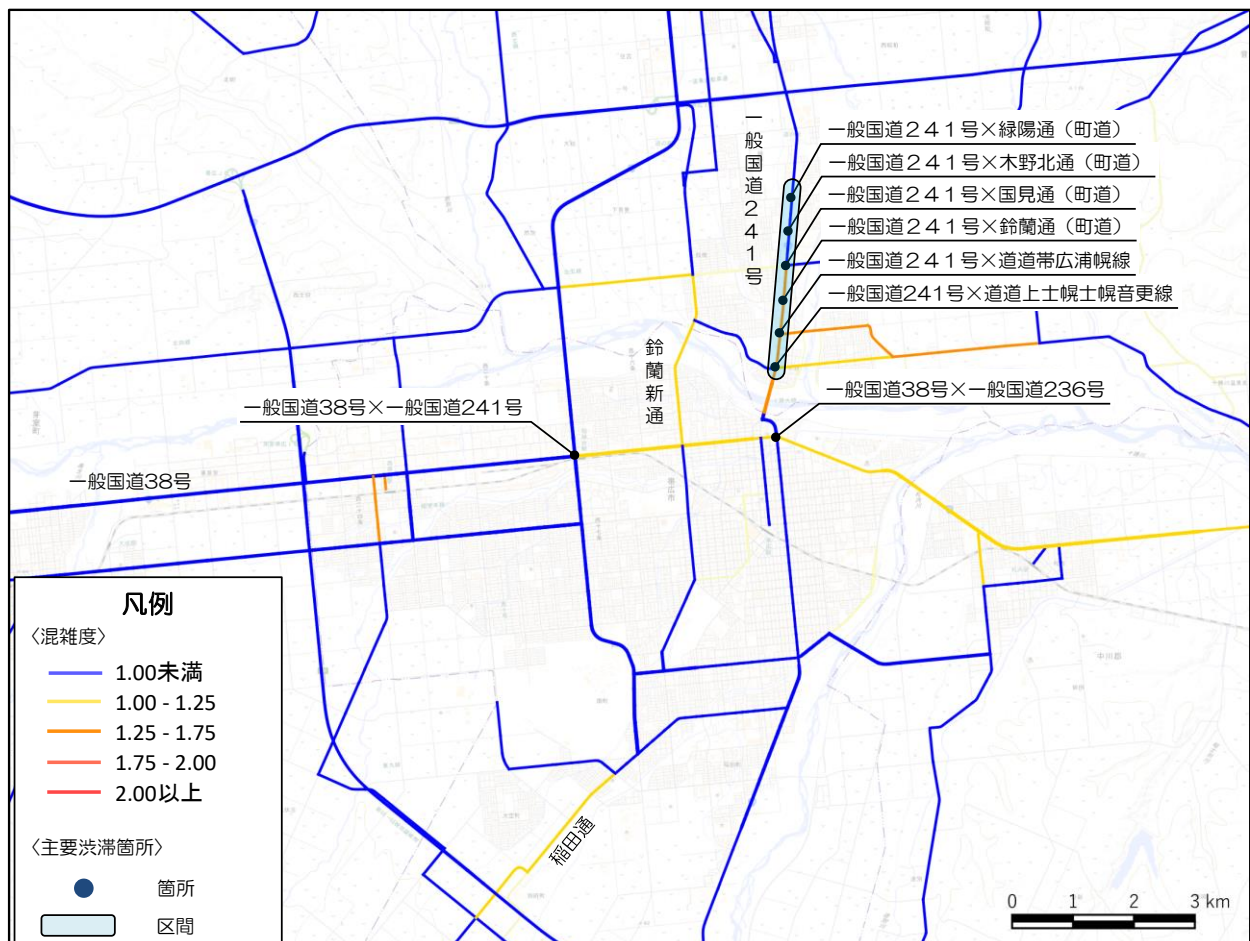


図6 運転意向（帯広圏）

② 帯広圏の道路交通の課題

1) 主要幹線道路の交通混雑の発生

令和3年度の道路交通センサスに基づく混雑度、及び北海道渋滞対策協議会に基づく主要渋滞箇所における帯広圏の混雑状況をみると、国道38号や国道241号の交差点部や国道241号の連続した区間などにおいて、混雑が発生する状況がみられる。



資料：国土交通省北海道開発局 北海道渋滞対策協議会資料

令和3年度 全国道路・街路交通情勢調査

図7 帯広圏の交通混雑の状況

1) 放射道路や都市幹線道路におけるバス路線の集中

この図は、愛媛県新居浜駅周辺のバス路線とバス停留所の分布を示しています。路線の太さや色は、その路線が何本のバスによって運行されているかを示しています。

凡例:

- 200便以上 (濃い緑色)
- 150～200便 (薄い緑色)
- 100～150便 (中間緑色)
- 50～100便 (青色)
- 30～50便 (薄い青色)
- 20～30便 (非常に薄い青色)
- 10～20便 (灰色)
- 6～10便 (薄い灰色)
- 5便以下 (点線)

※「ニッパンスズランプラザ」を含む

資料：十勝バス(株)HP、北海道拓殖バス(株)HP

図8 帯広圏における路線バスのバス停区間別の運行本数

2) 帯広圏のトリップ流動とバス路線網に乖離が発生

帯広圏の地域間トリップとバス路線のバス別区間別に運行本数を整理すると、帯広市西側と南側との流動が多くみられるが、バス路線網が形成されていない状況が見られる。

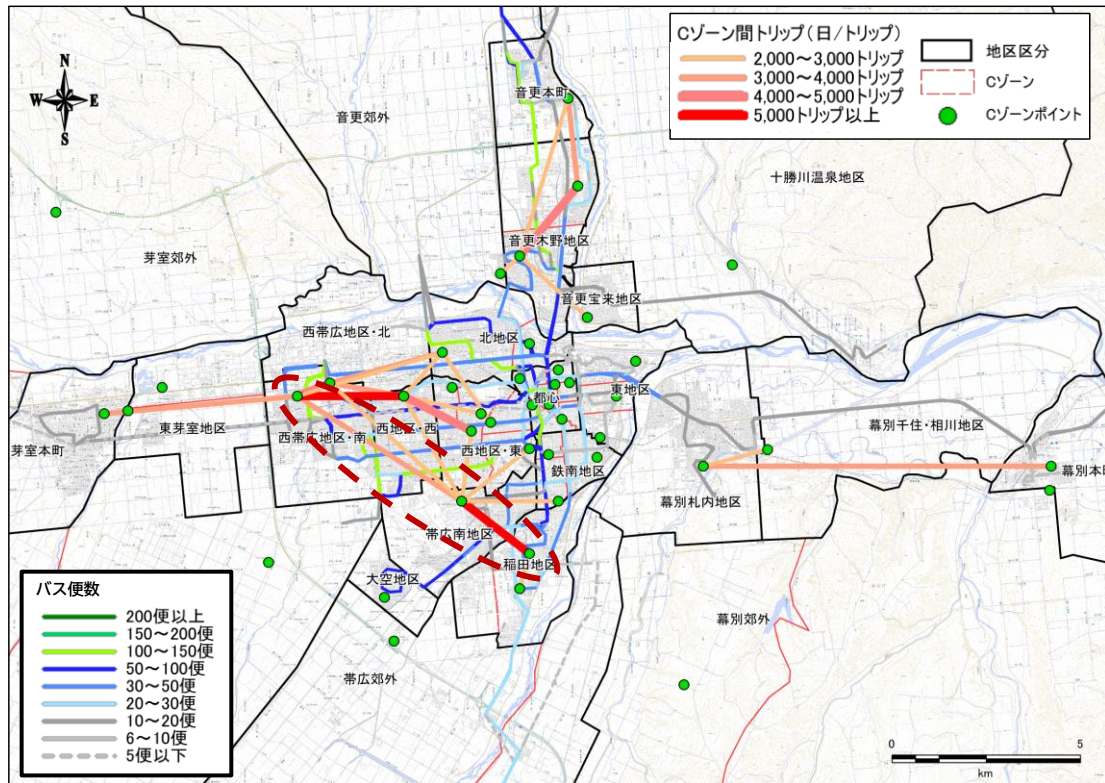


図9 帯広圏における路線バスのバス停区間別の運行本数と地域間トリップ流動
(2,000トリップ以上)

3) 公共交通の運転手不足が加速

労働時間短縮と運転者不足が重なり、2024年には2万人以上の運転者が不足すると考えられており、帯広圏では、50代以上の運転者が多く、将来的な不足が懸念されている。

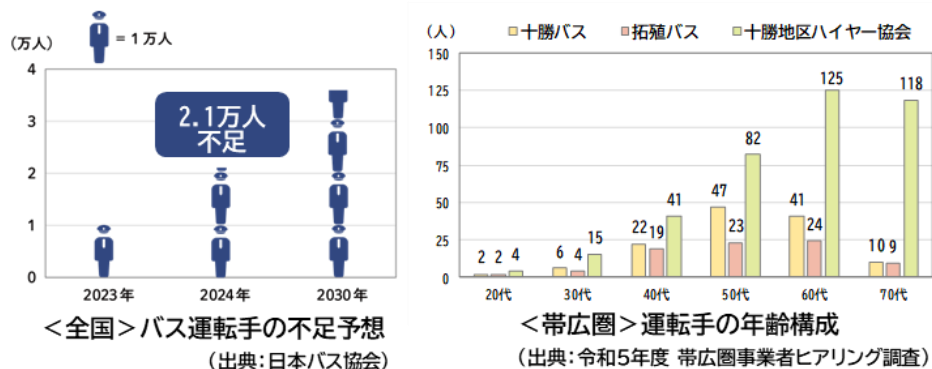


図9 運転手不足の状況

④ 都市交通マスタープランの施策

帯広圏における課題から都市交通マスタープランの施策について策定した。
各施策については、以下に示す。

1) 「道路交通」施策

方針 1 人口減少社会に適応する既存ストックを活用した交通体系の構築

<施策>

- 放射軸・環状軸の機能強化
- 将来の交通需要を見据えた取組の推進
- 都市計画道路の整備方向性の検討
- 交通需要の変化を見据えた道路空間の再配分検討

方針 2 迅速な避難や支援物資輸送に資する道路ネットワークの確保

<施策>

- 災害時でも安定した避難・物流交通を確保する交通体系の構築

方針 3 十勝の生産空間を支援する防災拠点の確保

<施策>

- 道の駅の防災機能強化

施策 4 地域経済の発展を支援する交通基盤の確保

<施策>

- 生産空間・産業を支える道路ネットワークの構築
- トラックの運転手不足への対応
- 将来的な物流動向を踏まえた広域ネットワークの整備検討
- ICTを活用した除排雪の効率化

施策 5 十勝の魅力ある観光資源を活かす交通環境構築

<施策>

- 安全な自転車交通を目指した啓発活動の推進
- サイクリストを支援する休憩施設や物品供給環境の整備検討
- シーニックバイウェイの推進
- 利用者にわかりやすい道路案内の推進

2) 「公共交通」施策

方針1 人口減少社会に適応する既存ストックを活用した交通体系の構築

<施策>

- 公共交通ネットワークの最適化の検討
- 利便性の高い公共交通ネットワークの検討
- 交通事業者間の連携検討
- 公共交通を担う運転手の確保への取組
- 運転手不足に対応した新技術等の導入

方針2 交通結節点の整備・強化による利便性が高くシームレスな公共交通体系の構築

<施策>

- 交通結節点の活用によるバス運行の効率化
- 交通結節点のバリアフリー化検討

方針3 住民、行政、民間事業者の連携による公共交通の利用促進

<施策>

- 地域の交通資源を総動員した持続可能な公共交通体系の検討
- モビリティ・マネジメントの推進
- 交通弱者への移動支援の検討
- MaaS のさらなる推進による公共交通サービスの充実化

3) 道路交通の施策図 (将来像)



図10 「道路交通」の施策図(道路交通の将来像)

4) 公共交通の施策図 (将来像)



図11 「公共交通」の施策図(公共交通の将来像)

⑤ 都市交通マスタープランの実現に向けて

1) 関連計画への整合

各市町や都市計画区域毎に作成する総合計画や都市計画マスタープラン、立地適正化計画、都市計画区域マスタープラン、地域公共交通計画などと、都市交通マスタープランを整合するよう取り組み、将来像の実現を推進する。

1) 関連計画への整合

都市交通マスタープランでは、帯広圏の交通課題と将来予測から将来像を定め、目標を達成するための様々な施策を提案している。

また、目標とする将来像実現のためには、帯広圏で実施される交通施策が、帯広圏の交通の将来像に近づくように、継続的な評価をしていくことが重要である。

計画策定から概ね 10 年後を目処に、社会情勢の変化を踏まえ、住民、行政機関、交通事業者などと連携を図りながら、計画の達成状況などを点検評価し、必要に応じて計画の見直しを進める。

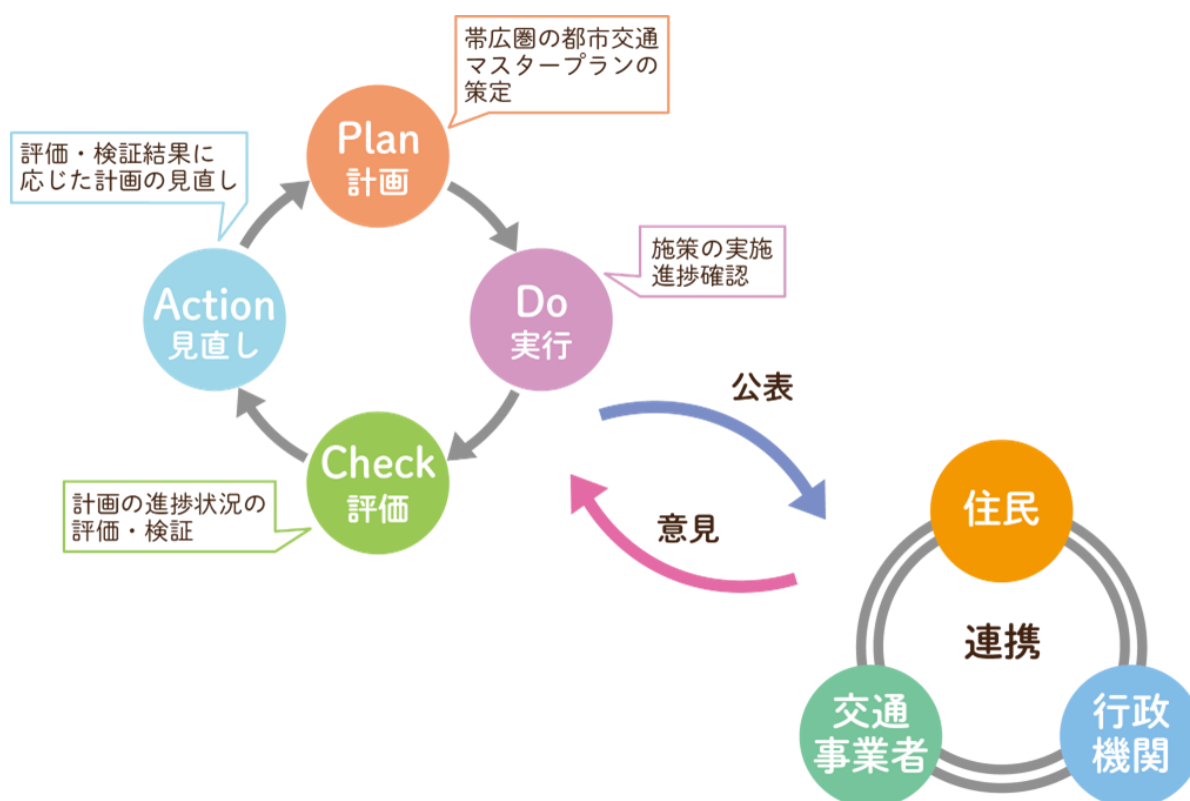


図 1 2 PDCA サイクルのイメージ